



時評

△
▽
て時代錯誤の政治をやつた、其の罪の
酬たり。

落花紛々、人、皆無情を嘆するのと
き若槻内閣倒る、護憲運動に依つて清
浦内閣を倒したるもの、今憲法違反の攻
撃に依つて亦倒る、何たる皮肉ぞや、併
し瓦解は當然、在朝のとき立憲内閣と
して生くべき途が多かつたにも不拘、
常に憲政の常軌を外にして民意に聽従
する所なく、深甚の考慮やら妥協を以

瓦解の直接原因、臺銀救済を基とし
て起つた樞府との衝突、臺銀救済案其
のものも目的と手段に於て間違があ
る、樞府が之を政治問題化したのも亦
間違、兩者は民衆政治の爲に許すべか
らざる行爲、臺銀救済の爲に日本銀行
をして資金を融通せしめ、之が爲に日
銀が損失を蒙つた場合に國民は二億圓

を限度として其の損失を補償すると、
蟲の可い計畫、政府の保護する特殊銀
行とは言へ、一銀行が政商と共謀して
やつた不始末を、國民の總負擔に歸せ
しめむとす、資本家の擁護、料簡が間違
てゐる、整理の必要があるなら自力で
行ふべきもの、配當制限、減資、等々と
自ら執るべき方法がある、之を措いて
國民負擔に頼るの理更に無い、之を緊
急勅令を以て敢行せむとしたり若槻内閣
の手段、言語道斷の沙汰、當局に憲法
政治思想の存否を疑ふ、樞府が之を違
憲行爲として咎めたのも強ち無理では
無い、併し亦天皇の諮詢機關として施
政に關與する権限のない樞府が、諮詢
以外の事項に亙つて首相を面罵し遂に
辭職を餘儀無くせしめたのは、政治上

無責任の樞府が責任内閣制の根本義を破つた非立憲的行爲、我が憲政史上に惡例を貽したことを憾む。

財政政策の改定を看板とした若槻内閣此くして遂に財政政策に依つて倒る、想へば、片岡を藏相としたのが間違ひであつた、一商人天下の財政を切盛する能はざるは當然、組閣に心すべきは閣員其の人を選択することに在り、人、或は死骸に鞭打つを已めよと言ふ、併し臺銀整理は此後に殘された政治問題、後繼内閣に對する政商對政黨の關係を戒むるの好材料。

▽ △

落花、に次ての新緑の装ひは政友會に依つて成された、五年振りに内閣を組織するに至つた政友會、さぞ満足で

あらう、併し田中男に大命が降下したのは、國民が卿等の主張する主義政策の全部を是認して、内閣組織を所望したことに因るのでは無い、衆議院に於て第二黨たる地位を占めてゐた偶然の結果、憲政の常道を辿り組閣せしめたに不過、従つて國民が内閣を信任するや否やは一に今後に於ける卿等の行動の正否に俟つ、正當行動、夫れは在野當時聲明した政策を實現することに在る、若し前内閣の轍を踏むで之を裏切るに至れば、政友會否な政黨の聲價は失墜する必定。

新内閣當面の責務は、財界を安定せしむることに在る、片岡前藏相は震手法案の説明に於て此法案が通過せなければ財界は混亂を來すと言ひ、法案通

過の後は臺銀救済で遂に其の言の如く財界を混亂状態に陥らしめた、若槻總裁、今日此事あるを知つて樞府に建言したが容れなかつた、と嘆す、餘りに短見であつた、人も許し自ら任ずる財政通も、片岡前藏相の短見に誤られたものと評すべきが。

新内閣、前藏相失敗の後に處して支拂猶豫緊急勅令を發布す、當然の應急措置とは言ひながら機宜を得た策、更に臺銀救済を後にして、一般銀行救済の爲に日銀補償法案を按し、臨時議會を招集して其の可否を國民に問はむとす、緊急勅令を以て一銀行を救済するの策と、夫れ幾何の懸隔やある。對支外交問題、首相聲明して、支那國民の正當な要望に對して深甚の同情

を以て援助を惜まず、併し其の目的達成の爲には順序方法がある、之を顧慮せず彌が上に動亂を激甚ならしむるは支那の爲ならざるを訓へ、赤化に就ては列國と共同手段に依るべきを宣言した隣邦支那に對する友情と日本の立場からして當然のことを言つたに不過、併し前内閣、幣原外交のやうに對支不干渉主義に墮して、在留日本人保護を忘れるのは禁物。唯だ首相が軍閥の片鱗たるだけに、支那や露國は帝國主義の再現、對支自由政策の放棄、北方軍閥の援助を夫れから夫れへと恐れてゐる、しかし時代の趨勢は夫れを許容するのときで無い、唯だ之を恐れしむるだけでも我の不利益、心せよ現内閣、對支外交策に。

組閣以來今日までに採つた財政的應急手段、對支外交方針の宣言、何れも間違つてはゐない、併し夫れだけが新内閣の使命ではない、在野當時聲明した積極的財政政策、金解禁、地租委譲、義務教育増額、等々と幾多の問題は前途に横つてゐる、之を國民的要求に基いて解決するのが政友會内閣の義務、更に誠む其の義務履行の爲には例の放漫政策に禍さるゝ勿れ。

併し新内閣の人事行政の亂暴なものに驚く、黨内臆官運動失敗者の嘆聲は兎も角として、警視廳部長級を誡首したことは官紀上許すべからざるもの、事務官政務官を區別して官を定めながら、内閣の交迭に依つて無垢の事務官を誡首し、我が乾兒を後釜に据ゆ、公

職を私したものと評さるゝも辭なかるべし。

此手で地方長官の交迭を策す、傳へらる、昨は憲政會内閣のした地方長官の交迭を攻めたもの、今亦之を自ら實行せむとす、猿の尻笑と評すべきか、此くして地方長官は政黨内閣の爲に自然政黨色彩を有する牧民官と爲り、地方政治は遂に政黨の爲に茶毒さるゝ、こゝを爲るゝ國家の爲是に塞心に不堪。地方長官の職務と其の社會的地位は、司法官の夫れとは違ふ、私情に黨情に偏した人事行政は、遂に政友會内閣を倒潰するの因とならぬとも限らむ、徒に誡首し交迭せしむるだけが人事行政の能で無い、特に鈴木内相に苦言を呈して、政友會内閣の爲に反省を

求むるや切。

▽ △

新内閣成立後擡頭したのは、憲本合同問題、兩黨妥協成立したときに合同すべきであつた、蓋し政友本黨の政策が憲政會の夫れと大差ないのは、本黨

自ら聲明した所、今迄之を爲し得なかつたのは政権降下を夢見た結果である、しかし第三黨たる地位を占めて、

妥協々定荷合と、女郎のやうな腕き方をして、君等に政権の行くには餘りに懸隔がある、今と爲つては合同の外途はあるまい、床次總裁如何に智慧を絞つても辿るべきものは此一途、之が本黨の立場を轉換する唯一の途。

憲政會も可い迷惑であらう、政権維持の爲に本黨を利用したゞけで、合同

強要を排するだけの魂を失つた、已むなき合同無難に成立するや頗る疑問、

從來の感情やら地盤の關係で本黨から多數の脱黨者を出すのは必定、結局は本黨解散の状態で憲政會へ吸収合併と爲らむ。

本黨の爲には残念であらうが、今と爲つては仕方が無い、從來の感情を捨て、男らしく吸収さるゝが可い、我が

政界から態度不分明な第三黨が驅逐された事こそ政界の整理、今更黨首問題など吸収合併にあらう筈は無い、一日も早く合併せよ、二大政黨對立の理想を實現するに至つたのは國民の幸福。

▽ △

招集されむとする臨時議會、財界救濟案で相當議論を見るであらう、十分

論議して各黨派の意見を國民に宣明せしむるのが當然、昭和新政に政界安定を企圖して憲政の常道を外した憲政

會よも彈劾案を提出しない、新内閣の彈劾必しも咎むべきで無い、併し其の彈劾には之を爲すに就ての公明な理由の存することを要す、政権獲得の陰謀手段としてならば吾人は斷じて之を

不許。

内閣、彈劾されたら直に議會解散の手段を採れ、夫が政友會内閣の信を國民に問ふ手段であつて、現内閣が生きる唯一の途、夢、妥協荷合を行ふ勿れ。

▽ △

内閣交迭が生んだ逸話二つ、内閣交迭の際に懸案事件を突嗟の間に決定するのが從來の悪習であつた、何をか感

叱けむ濱口内相唯だ獨り此惡例を破つて、辭表捧呈後は事件一切の處置を禁ず、内閣辭職の機會を利用して數多の

我が濱口高橋兩翁の在るは聊か以て氣を強くするに足らむ。

鐵道敷設を免許したものと、其の人格

と、八箇年を費しての鋪裝工事、次から次へと壞かれて行くのも已むを得ない、更に山手方面道路に第二期鋪裝工

に於て霄壤の差がある。特に之を茲に

事を実施すと、之も亦結構。併しながら

紹介する所以は之を以て後者の龜鑑た

簡か、復興局は大きな道路を開設した

らしむが爲、モーター、政友會にゐた

々けで事業は完了したものと心得てる、帝都重要道路の鋪裝を捨て、山手

ことを忘れられてたかの高橋翁、藏

焼失區域に於ける道路は鋪裝しない料

相の地位を甘受快諾して天下の急を救

たないで、非募債之れ能事とした惡政

はむとす、其の意、國家の爲には從來

は、少くとも政友會内閣では行はれま

の感情やら經緯を忘れたやう、そこら

い、民生進展の爲に五箇年間抑へ附け

の政黨總裁と比較にならぬ高潔な行

られた道路工事を起すのは今の時。

動、我が國政治家の範とすべし、政敵

自動車道路——地方開發道路助勢の

田子君も其の心事に感奮して政友會に

計畫を樹立するもの今の時、内務省土

入黨したとやら、政治家の行動此くあ

ない、何れ市が鋪裝する役と爲る、今

るべきもの、あらしめたきもの、世上

から計畫することを肝要。

人格の墮落を嘆くもの多々あるの秋、

東京府、郊外發展の現状に鑑みて、